

事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 南丹市教育委員会
2. 研究主題 : 学校統合を行う場合の教育環境充実事例研究
※事業計画書「3. 研究主題」と同じ
3. 研究タイトル : ふるさと「美山」の学びを通じた児童の確かな学力形成と地域の活性化に関する研究
4. 研究課題 : ・ 広大となる校区において、美山地域全体の豊かな教育資源を最大限に生かし、校区全体を学習キャンパスとした学習活動を展開するための新たな教育内容づくりや教材開発。
・ 地域の文化・自然・歴史・産業・人材等の特色を生かし、地域とともに児童の学びを深める教育課程の開発、実施。

5. 事業の実績

(1) 調査研究のねらい

小学校再編により広大になった校区の教育資源を最大限に生かした「美山学」を、小中9年間を見通して実践し、教育課程改善や指導案・教材の蓄積によってその内容の充実を図り、児童に主体的・協働的で深い学びを身に付けさせる。また、地域の特性や課題、歴史・伝統、文化等に係る学習を地域との協働によって教育課程に体系づけることを通して、教育文化活動の継承と推進を図り、地域の活性化につなげる。

(2) 調査研究の実施状況（平成29年度）

| | |
|-----|---|
| 4月 | 研究推進計画作成 研究推進委員会 |
| 5月 | 研究部会 熟議「子どもの良さを捉えて地域と学校で一緒に取り組めることを考えよう」 |
| 6月 | 授業研究会（1年生 道徳） 事前研・事後研 先進校視察（島根隠岐郡海士町：隠岐島前高校、海士小学校、福井小学校） 第3回サテライト教室 宮島（城山） |
| 7月 | |
| 8月 | 研究推進委員会 「美山学」カリキュラムに基づくフィールドワーク 授業研究会（指導案検討、実践報告） |
| 9月 | 熟議「さらに伸ばしたい力：チャレンジ精神・人と関わる力・美山の自然に目を向ける力について具体的な方策を考えよう」 授業研究会（4年生 社会） 事前研・事後研 海士町交流学习（web） ホームステイ |
| 10月 | 研究推進委員会 授業研究会（6年生 総合的な学習の時間） 事前研・事後研 学習発表会 |
| 11月 | 研究部会 海士町交流学习（web） 少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業研究発表会 |
| 12月 | 研究推進委員会 |
| 1月 | 授業研究会（研究発表会での公開授業の事後研究会） |
| 2月 | 美山まちづくりのつどい（児童発表） 「美山学」リーフレット配布 研究推進委員会 海士町交流学习（web） |

第4回サテライト教室 平屋（大内かぶら）

| | |
|----|---------------------|
| 3月 | 熟議「美山のどんなことを学ばせたいか」 |
|----|---------------------|

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。
 ※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。
 ※本事業から経費を支出した事項（会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など）については、必ず記載すること。

6. 事業の成果

(1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

美山まちづくり委員やコミュニティ・スクール推進委員、保護者、美山中学校教職員、その他の地域コミュニティ関係者等との熟議を実施し、育てたい美山の子どもの像について共有し、課題克服を含めて、その実現に向けてアイデアを出し合う中で協働意識が高まりつつある。また、校区内の教育資源を生かし、各教科や道徳、総合的な学習の時間の学習として教育課程に位置付け、「美山学」を通して、より効果的な学びを進めた。その内容や成果について、美山学だよりやホームページ等で広報したり、新聞やテレビ等のメディアで紹介されたりして、この研究に対する理解が深まり、学校評価アンケートで、「子どもたちに地域の良さを学ばせている」という項目では、肯定的な意見が76%から87%に、「子どもたちは美山の自然や文化、歴史に親しみを感じ興味を持っていると思う」という項目では71%から80%に、研究当初より上昇した。

再編初年度と本年の2年をかけて、旧5小学校区独自の歴史や伝統文化について、教育課程に位置付けた学習を旧校舎等を会場にして実施した。その際、事前に広報を行い、児童のみならず地域住民にも学習の場を提供し、共に地域を知り愛着を深める機会とすることができた。また、5年生で実施したホームステイは、旧小学校区(居住地域)と異なる地域にホームステイすることで、地域特性や文化の違いを学ぶ機会となるとともに、実施後の交流が続いたり、受け入れ家庭の学校教育への協働意識が高まったりして、「地域とともにある学校」の一端を示すことができた。

島根県隠岐郡海士町の海士小学校・福井小学校とweb会議システムを使った交流を実施したことで、相手校に本校や地域についての的確に伝えるため、これまでの美山に関する学びを深め、整理することができた。また、遠隔地との交流で地域特性や文化の違いを学んだことが、新たな視点を持って美山を学ぶ意欲につながった。合わせて、コミュニケーションの楽しさを味わったり、コミュニケーション力の必要性を考えたりするきっかけとなっただけに留まらず、web交流の可能性について知ることができ、美山からの発信・交流に対する意欲につながった。

本研究2年次の研究発表会を開催し、共同研究者である推進委員とともに研究実践を発表することができ、学校と地域が共に研究を進めてきた歩みを内外にアピールすることができた。また、公開授業には多くの参観を得て、地域と協働した学習や児童の前向きな学習姿勢、今後改善を要する課題について、評価や課題の指摘を得ることができ、今後の研究課題設定の指標とすることができた。

※必要に応じて、適宜、表を追加・削除すること。

(2) 成果物等

- ・平成29年度（2年次）「研究紀要」
- ・研究発表会 指導案集
- ・2年次研究報告（含 美山学だより4号～9号）
- ・「美山学」リーフレット（29年度版）

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。
 ※成果物（冊子・パンフレット等の印刷物）については、10部添付すること。
 ※成果物（冊子・パンフレット等の印刷物）の電子媒体がある場合は、併せて送付すること。

(3) 今後の取組予定

| | |
|----------|---------------------|
| 3月14日（水） | 熟議「美山のどんなことを学ばせたいか」 |
|----------|---------------------|

※要点をまとめ、簡潔に記載すること。